

平成22年 3 月31日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19402048
 研究課題名（和文）共生社会における性教育の現代的意義—スウェーデンの先進的事例に学ぶ—
 研究課題名（英文） Significance of sexuality education in modern convivial society
 : Case studies on Sweden
 研究代表者
 佐藤 年明 (SATOU TOSHIAKI)
 三重大学・教育学部・教授
 研究者番号：80162452

研究成果の概要（和文）：

前回科研費研究（2001-2004 年度）時には達成できなかった、スウェーデンの基礎学校、高等学校における sex och samlevnad（性と人間関係）の授業観察の機会を得ることができ、日本語による授業記録作成と分析を行なうことができた。

研究成果の概要（英文）：

For the first time I got chances to observe, record and analyse Swedish sex och samlevnad instruction at grundskola and gymnasium level.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2008 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
年度			
総計	5,400,000	1,620,000	7,020,000

研究分野：教育方法学、教育課程論

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：共生社会、性教育、スウェーデン、性と共生、多文化社会

1. 研究開始当初の背景

スウェーデンにおける性教育は、世界的に見て先進的であると日本では評価されているけれども、授業実践の実態についてはあまり紹介されていない。佐藤は前回科研（2001-2004 年度）の期間にスウェーデンの性教育研究者や実践者とコンタクトをとり、またスウェーデンの基礎学校訪問・授業観察を行なったが、sex och samlevnad（性と人間関係）の授業を観察・分析する機会を得ることはできなかった。従って今次科研出発

時の最重要課題は、まず基礎学校及び高等学校で sex och samlevnad（性と人間関係）の授業観察の機会を得ることであった。

2. 研究の目的

人間の性的関係は社会的諸関係の中でも心身両面において最も私的で緊密であり、ある局面では最も堅固であっても他の局面では微妙にあるいは激しく揺れ動くものである。性の意識化や心身の性的成長が人間の社会化の重要な一貫をなす以上、性が広い意味

での「教育」の課題となるのは自明である。現代の国家社会、国際社会は構成員の点からだけ見ても次第に複雑化し、流動化を続けている。そうした現実への対応の必要と人権思想の深化等が相俟って、異なる立場、思想、行動、履歴等を持つ人々の「共生」が、重要な社会的課題として浮かび上がりつつある。「共生」を人間社会の根幹をなす基本的課題として重視する立場から「共生社会」という概念も提起されている。多様な存在の共存と相互承認という近未来社会の方向性を支持する立場から、従来から継続してきた学校教育における性教育研究をこの社会構図の中に位置づけ発展させたい。スウェーデン王国の性教育は、学校で必修化されて 2005 年で 50 周年になる。日本で言う性教育はスウェーデンでは「性と共生」(sex och samlevnad)と呼ばれる学習テーマである。スウェーデンの性教育では、人間の性は常に「共生」とセットで、人間関係の問題として捉えられている。遺伝子的な性別決定や性自認・性志向におけるマイノリティの性、障害者の性、異文化を持つ人々の性、老人の性などの諸分野において、ノーマルとそうでないものという二分法を克服して多様な性のあり方を承認し共存していく方向を目指す学習と討論が行なわれている。申請者はこれまでスウェーデン王国の性教育について調査・インタビュー・文献検討などを蓄積してきた。そこで、本研究においては、「共生社会」をキーワードにスウェーデン社会の政治・経済・文化的な諸側面（特に学校教育研究の隣接領域である障害児教育・障害者政策や社会福祉の領域を中心に）を包括的に把握しその中に学校及び学校外の諸教育機関における「性と共生」の学習活動を位置づけてその成果と課題を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

平成19年度

本研究の第1年次である平成19年度においては、研究代表者佐藤の従来の教育学の立場からのスウェーデン性教育研究を踏まえて、研究分担者・児玉の長年にわたるスウェーデン社会研究の成果から示唆を得ながら、「共生社会」をキーワードとして研究の視野を大きく広げ、共生社会研究としての性教育研究として再度位置づけを明確にする作業を研究活動の中心とした。

具体的には、研究目的の項で掲げた3つの研究の重点のうち、特に第一点＝性と障害児教育・障害者政策や社会福祉の領

域との関わりの研究、及び第二点＝性自認、性志向におけるマイノリティをどのように位置づけていくのかという課題について、教育方法学と社会学の研究方法上の接点を模索しながら、基本資料の収集と検討に力を入れ、これにより「共生社会における性教育」を理論的に定直し、主として第2年次以降に実践的なデータ収集と分析を行なうための土台形成を狙った。

佐藤はこれまで主としてスウェーデンの大学の教育学研究部門、教員養成大学・学部などのルートで先生の実践及び研究に関する情報収集を行なってきた。そこで視野を広げるために第1年度において、児玉の協力を得ながら、スウェーデン社会において「性」をめぐる問題を扱うあらゆる国家と地方の社会機関、社会運動団体・実践団体・研究団体・宗教団体等について可能な限り広く情報を収集し、スウェーデン社会におけるセクシュアリティ関連組織の全貌に関するマッピングを試みる。このマップを、次年度から性教育を幅広い社会的視野のもとで再検討していく作業において仮説として活用したいと考えた。

平成19年度の前半は実施のための情報収集を中心に行い、後半からは基礎的な現地調査を行うことにした。これまでの文献や基礎的なデータの収集は実証的な調査を始める前に必要な作業であり、前半においてこうしたデータの蓄積を行なうこと、日本における基礎的な現地調査は児玉を中心に、スウェーデンにおける基礎的な現地調査は佐藤を中心に行なうことを計画した。佐藤の行なった「平成13年度－16年度 研究課題名：スウェーデン王国における性教育の歴史と現在の課題」の科学研究費補助金による調査の結果を参考にしつつも、視点が異なる点もあり、新たな情報収集が必要であった。19年度においては、後年度に実質的な調査ができるためのキーパーソンの把握や基礎的なデータの収集を中心に調査を進めることにした。海外での研究協力者であるストックホルム教育大学のビルギッタ・サンドストローム氏とスウェーデン性教育協会のハンス・オルソン氏に、調査のためのアドバイスや連携を求めることにした。

まず、性と障害児教育・障害者政策や社会福祉の領域との関わり の現状とその機能を明らかにするために、面接を中心に調査を進めることにした。障害児や障害者を特別な存在として扱うのではなく、全人格的に社会参加していく発想の中で、性教育はどのように展開されているのかを明らかにするための調査として計画した。

平成20年度

第2年次である平成20年度には、第1年次の基礎研究の成果を踏まえて、スウェーデン社会における性をめぐる問題、及び性教育の実践の現実に関する資料の渉猟・収集と初期的な分析作業に取り組むことを計画した。

佐藤はとりわけ、性教育の継続的実践状況を把握することを目指しての学校訪問・授業参観を中心とした現地調査活動を行なうこととした。

平成16年度までの4年間の科学研究費補助金交付を受けた研究では、予算上1週間～10日程度の現地滞在が限度であった。この中には研究者との面会予定もあり、また休日も含まれるので、その中で学校訪問を依頼して許可される日数は非常に限られていた。具体的には2002年2月の訪問で1日、2004年9月の訪問で2日だけであった。そこで本研究では、少なくとも1か月程度の滞在を計画した。第2年次(平成20年度)及び第3年次(平成21年度)に、現地と密接に連絡を取りながら、8月後半に始まり6月前半に終わるスウェーデンの学校年度の中でいくつかの異なる時期を設定して、連続的あるいは複数回の「性と共生」の授業の参観・記録・分析を行なうこととした。児玉は、スウェーデン研究の知識とネット

ワークでスウェーデンでの調査に加わるとともに、比較の対象としての日本の状況の把握に努めることとした。

平成21年度

3年間の共同研究を総括する討議を継続し、その成果の一部を学会・学術誌等に報告し、また、最終報告書を作成することとした。

① 佐藤は教育方法学、特に教育課程論の研究に30年余にわたって取り組んできた。特に現在の勤務校である三重大学教育学部に赴任して以来の18年間は、日本の学校教育課程が学習指導要領の法的拘束性に制約されるために自由に試行錯誤と発展を追求できない現状を批判的に検討しつつ、その中でも現代社会を生き抜く上で直面するさまざまな課題について、既存の教科領域の内容を活用しつつも、その枠内にとどまらずに積極的に学習していく必要性を主張してきた。この主張を実現するためには既存各教科の学習の活性化が必要なことはもちろんであるが、2002-2003年の学習指導要領改訂によって小学校・中学校・高等学校に「総合的な学習の時間」が新設されたことにより、佐藤の主張を実戦に移せる現実的基盤は大きく広がったと考える。佐藤が考える現代的な学習課題は1.生と死 2.生 3.食 4.生産・消費・廃棄・資源再利用 5.環境 6.平和 7.パフォーマンスとコミュニケーション 8.情報とコンピュータ 9.原初的レベルにおける共感・連帯共同行動 10.価値葛藤、である。これらのテーマの

多くは、これまで教職科目「教育課程論Ⅱ」その他において取り上げてきたが、このなかでも「性」に関する教育・学習は、佐藤の中心的な研究テーマである。

これまで、教育学研究としての性教育研究については、この分野が教育学においても相対的に研究の進んでいない分野であることから色々と試行錯誤を続けつつも、一定の前進を見ることができた。今次研究においては、「共生社会研究」という総合的視野の下に従来のスウェーデンと日本の性教育に関する研究を大きく発展させることができると考えた。

4. 研究成果

今次研究の当初の基本的方向性は、前回科研(2001-2004年度)の成果を継承しながら、sex och samlevnad (性と人間関係) という名称で呼ばれるスウェーデンの性教育を、学校教育のみならず関係社会機関とのネットワークの中に位置づけてより広い視野で捉えることに置いていた。

しかし同時に、前回科研でスウェーデンの性教育研究者や学校教育関係者との一定のコンタクトを築きながらも、また何度かの学校訪問・授業観察の機会や、学校以外の社会教育機関における性に関する学習指導を観察する機会を得たものの、肝心の基礎学校(義務教育機関)・高等学校での sex och samlevnad (性と人間関係) の授業観察の機会を得られないままであったことが最大の積み残し課題であり、従って今次科研においては、学校以外の社会機関における青少年の性的成長への支援やその相互連携を調べることも、まずは学校そのものにおける性の学習指導の実態に迫ることを当初の課題としたいと考えるに至った。

そして3年間の今次研究期間において、基礎学校3校、高等学校1校で sex och samlevnad (性と人間関係) の授業延べ9単位時間を観察することができた。

但し、このうち2校の基礎学校においては、ビデオカメラによる授業記録の了承が得られず、授業観察データを研究資料として蓄積・利用できなかった。この点は前回科研当時との大きな違いである。当時は教室で教師が子どもたちにビデオ撮影を承諾するか問い、子どもたちはOKしてくれた。今次研究では、どの学校でも親の承諾が条件として提示された。スウェーデンは移民が多く、民族的・文化的・宗教的背景も多様である。そのような状況の中で、全ての親から承諾をとってもらうためには、訪問・観察する研究者と学校教師の間に、研究の意図・意義・成果活

用の見通し等についてかなり立ち入った対話と合意が必要になる。これらの事情は、わが国における教育方法学研究・授業研究に対してもいろいろな問題を提起していると言えよう。

さて、そのような中でも基礎学校1校で5単位時間(5クラス)、高等学校1校で2単位時間(1クラス)の授業を参観・ビデオ記録し、後日日本人通訳者の全面支援を得ながらそのすべてを文字記録化し、学会等で報告すると共に、今次科研の最終報告書や佐藤の研究室ウェブサイトにて公開した。この2校における授業記録を中心に、それ以外の学校を含めての性教育担当教師インタビューや、これらとは別にスウェーデンで sex och samlevnad (性と人間関係) の教育を受けた若者へのインタビューなどを最終報告書に掲載した。見学できた学校や教師を紹介してくれたスウェーデン性教育協会の研究者へのインタビュー、彼が作成した教師向けの性教育パンフレットの翻訳等も掲載している。

今次研究で残した課題は、3年間で収集したこれらの授業記録、インタビュー記録などの実践関連資料や翻訳した文献などを、資料収集結果として最終報告書に掲載することとなり、それらの内容を十分に分析することができなかつたことである。

本研究は引き続き継続する計画であるが、平成22年度においては新たな科研費申請の採択を得るに至らなかつた。当面、残された今次研究資料の分析作業を継続しながら、研究の継続に向けて準備を進める予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 佐藤年明、スウェーデンの基礎学校および高等学校における sex och samlevnad (性と人間関係) 授業実践事例の検討、三重大学教育学部研究紀要(教育科学)、査読無、61巻、2010、319-331
- ② 佐藤年明、杉村伸一、藪中俊典、「生命誕生の授業」における児童の認識—三重大学教育学部附属小学校2008年度3年A組、5年C組の「赤ちゃんの旅」文集の分析—、三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、査読無、30号、2010、77-82
- ③ 佐藤年明、三重大学教育学部附属小学校での2つの実験授業における指導効果の比較検討、三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、査読無、29号、2010、61-67
- ④ Toshiaki Satou, Records and Analyses of 'sex och samlevnad' (sexuality and personalrelationship) lessons in the

seventh and ninth grade at Dalarö skola
inSweden, 三重大学教育学部研究紀要
(教育科学)、査読無、60 卷、2009、
253-267

⑤ 佐藤年明、小学校性教育における「生
命誕生過程」の授業実践の自己分析、三重大
学教育学部研究紀要 (教育科学)、査
読無、59 卷、2008、237-248

[学会発表] (計 2 件)

①佐藤年明 小学校性教育における「生命誕
生過程」の教育内容・教材・指導過程の検討

(2)－三重大学教育学部附属小学校における
実験授業の自己分析－

日本教育方法学会 (第 4 3 回大会)
2007.9.30 京都大学

②佐藤年明 スウェーデンの基礎学校およ
び高等学校における sex och samlevnad
(性と人間関係) 授業実践事例の検討
日本教育方法学会 (第 4 5 回大会)
2009.9.26 香川大学

[その他]

ホームページ等

[http://www.cc.mie-u.ac.jp/~tsatou/tsatou-h
ome.html](http://www.cc.mie-u.ac.jp/~tsatou/tsatou-home.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 年明 (SATOU TOSHIAKI)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：80162452

(2) 研究分担者

児玉 克哉 (KODAMA KATSUYA)
三重大学・人文学部・教授
研究者番号：50225455

(3) 連携研究者

なし